

## 自然保護その後 10 年

創立 50 周年を迎えた平成 16 年（2014 年）以降の神奈川県山岳連盟の自然保護活動を振り返る。

### 丹沢クリーン活動：クリーンから再生へ

嘗て「わらじ祭り」が行われていた。これは、沢廻りのメッカとなった水梨川や葛葉沢で廻行の終了点の樹木の枝に懸けられた使用済みの草鞋への感謝と環境美化を兼ねた山岳クリーン活動の先駆けとなった。この先人たちの思いを再燃させたのが、創立 50 周年を記念して行われた清掃登山であった。2003 年 9 月 18 日に、北丹沢地藏尾根と表丹沢源次郎沢で 127 名の会員を集めてゴミ回収で造林小屋跡などから、負の遺産（当時の自然保護委員会ではそのように呼んだ）と称した生活ごみ（ガラス瓶、陶器、空き缶など）の回収をこなった。この活動で、回収しきれないほどゴミの存在を認識した連盟自然保護委員会では、毎年恒例事業として清掃登山を行うこととした。この間の活動では、植生へのインパクトを抑制するため、回収範囲を限定して他への立ち入りを抑え、露出ゴミ飲みを回収することとした。所謂「神奈川方式」の清掃活動を実践した。

2009 年には、ゴミ回収がほぼ終わると思われ、更なる展開として植樹による植生回復へのシフトを試すこととなった。二ノ塔尾根の山腹には小規模な崩壊による裸地が点在しており、登山経路に隣接する海拔 1050m 付近を対象に、植樹を伴った地表植生の回復を目指した活動へと活動の内容を変えた。自然環境条件が厳しい立地で失敗を乗り越え、2012 年植樹の活着成功させ、活動の意義も一段と上昇させ、2014 年の植樹に向けては、公社）国土緑化推進機構のふるさと森林再生事業交付金の適用や環境財団三菱UFJ の苗木寄贈を 200 本を得て、神奈川県山岳連盟 60 周年事業として、植樹の拡大展開を行った。

年	概要
2003	50 周年記念事業として、北・表丹沢での山岳清掃活動を実施
2004	前年ゴミ取り残した表丹沢・源次郎沢源流で清掃活動を再実施
2005	清掃活動 5 カ年事業とし、二ノ塔頂上付近の清掃活動 35 名
2006	前期活動地を拡大して実施 73 名参加
2007	前期活動地を拡大して実施 67 名参加
2008	菩提峠周辺を加え前期範囲を拡大展開 41 名参加
2009	二ノ塔尾根裸地の植生回復を図る植樹を活動に加える 33 名参加
2010	環境登山と改称し、前期活動継続展開 23 名参加
2011	登山経路調査を加え前期継続、41 名参加
2012	年 2 回を含む年間活動の実施とし、春に植樹を展開 42 名参加
2013	植栽地拡大展開、前期継続 41 名
2014	ふるさと森林再生事業交付金適用、植栽地拡大展開中

### 森林づくりボランティア活動：山で培った技量で、里山再生

2009 年から、「かながわ県民と協働による森林づくり実行委員会」が募集する「新定着型森林づくり活動」に応募し、清川村煤ヶ谷字土山に約 8 ヘクタールの里山林の 10 年間の活動利用として神奈川県と覚書を交わし、里山森林整備を行ってきた。東丹沢・仏果山の西山

麓が宮ヶ瀬湖と接する標高 300mで、コナラなどの広葉樹が生い茂る。かつては薪炭林として供してきたのであろうが、幾十年も放置され、直径 50 c mほどの大木が空を覆い、蔦が絡まり蜘蛛の巣状態の灌木林が点在し、地表には落枝落葉深く積もった荒れた状態となって居たところを整備するというのであるからボランティア活動としては大事業となった。また、この地はヤマビルの生息地としても悪名はせているから、ビルの休閑期の 11 月ころから春先の半年間で、10 回を限度とする活動となった。鋸や鉋などの人力のみでは太刀打もできず、チェーンソー、ブロワー、チルホール（ウインチ）などの機械力の導入は必須で、専門的なスキルが求められた。

年度	概要
2009	森林づくりボランティア活動実行委員会成立、12月13日第一回活動
2010	清川村長会見、作業経路づくりなど、年6回延べ82名参加
2011	地表整備、間伐、茸栽培など 年10回延べ116名参加、法定安全教育履修者4名
2012	地表整備、間伐、茸栽培など 年9回延べ53名参加、グリーンボランティア保険導入
2013	地表整備、間伐、茸栽培など 年10回延べ65名参加、関東地区自然保護交流会開催、丹沢大山再生活動報告会にて活動状況発表
2014	活動中

活動開始から5年を経て、

指導者養成（日山協公認自然保護指導員、環境省自然公園指導員）

年度	開催場所	参加者数	開催概要（講演演者／演題）	記事
2004				実施なし
2005	秦野文化センター 山岳SC	55	青木 淳一博士／自然は友達	一般公開
2006	かながわ県民スポーツセンター	82	吉田直哉氏／自然公園	指導員研修会
2008	同上	82	入野彰夫氏／ <b>適正な自然公園利用</b>	同上
2009	同上	46	辻本明氏／生物多様性	同上
2010	同上	42	大野謙司氏／ <b>県下自然公園の現況</b> 、茅野徹氏／ <b>デナリの山岳保全事</b>	同上
2011	山岳スポーツセンター	47	谷脇徹氏／ブナハバチ	「山の自然セミナー」と改称し一般を受け入れ
2012	同上	40	齋藤央嗣氏／無花粉スギ	
2013	同上	42	紅葉淳一氏／神奈川の森と自然	委員会から講師、埼玉県山岳連盟と共催

年度	自然保護指導員		自然公園指導員	
	登録者数	辞退者数	登録者数	解職者数
2006	40	51	44	不明
2007	40	0	44	0
2008	50	0	36	8
2009	56	0	36	0
2010	56	0	36	3
2011	46	12	36	0
2012	53	0	36	6
2013	55	0	36	0
2014	62	0	33	5

